

第3回 第4次泉大津市総合計画審議会 議事録

日 時	令和元年10月21日(月曜日) 15:00 ~ 16:45
場 所	市役所3階 大会議室
出席者 (敬称略)	<p>会 長：臼谷 喜世彦(泉大津商工会議所) 副会長：杉原 充志(羽衣国際大学現代社会学部) 委 員：貫野 幸治郎(泉大津市議会)、高橋 登(泉大津市議会)、野田 悦子(泉大津市議会)、村岡 均(泉大津市議会)、森下 巖(泉大津市議会)、大久保 學(泉大津市自治会連合会)、中 透(泉大津市医師会)、高寺 壽(泉大津市民生委員・児童委員協議会)、平井 拓己(武庫川女子大学生活環境学部)、柴 恭史(桃山学院教育大学教育学部)、森田 雅明(泉大津市)、五十嵐 輝雄(市民)、清水 勝弘(市民)、岩田 雅之(市民)、新子 美奈子(市民)</p> <p>欠席：宿南 洋一(泉大津市PTA協議会)、川井 太加子(桃山学院大学社会学部)</p> <p>事務局：吉田総合政策部長、重里総務部長、朝尾都市政策部長、川口健康福祉部長、丸山教育部長、高寺消防長、杉田市立病院事務局長、藤原総合政策部危機管理監、政狩総合政策部次長、東山政策推進課長、川崎政策推進課長補佐、中塘政策推進課係長、宮下政策推進課係員</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 ご意見と市の考え方について 3 答申(案)について 4 閉 会

■議事概要

(1) 開会

(2) ご意見と市の考え方について

- ・事務局より「資料1 ご意見と市の考え方について」を説明

(3) 答申(案)について

- ・事務局より「資料2 答申(案)」を説明

会 長：「全体について」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。

各 委 員：(意見なし)

会 長：「力を合わせて市民の笑顔があふれるまちづくりについて」文言の加筆修正などがあれば、ご意見があればお願いします。

委 員：総合計画の改訂なので、抽象的な表現にならざるを得ない側面はあると思うが、議論してきた部分について、具体的な事例が少しでも盛り込まれることで、市民の理解がより深まると思う。

委 員：答申は大きな方針を示すものなので、具体的な例を盛り込むことは違うような気がする。

委 員：2つめの「グローバルな視点をもった市民の育成にとりくまれない」とあるが、市民を育成するということの表現が適切かどうか。グローバルな感覚を市民のなかに浸透させていくということがわかるような表現になれば良いかなと思った。

事 務 局：「グローバルな視点をもった市民の育成」というところについては、「意識を醸成していく」というような表現に修正していくことで良いか。

各 委 員：異議なし

委 員：基本計画では、外国人児童への日本語指導なども含まれているので、教育的なところと

- の連動性を書くことによって、各項目の連動性が具体化するのではないかと思った。
- 会長：次に「学び合うひとづくり 彩あるまちづくりについて」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。
- 委員：2つめの小中一貫教育、コミュニティ・スクールで、地域コミュニティとの連携が重要であり、「どのように連携するのか検討を行い取組を進められたい」とあるが、連携するにあたっての様々な課題、メリット・デメリットを十分に検討し、踏まえた上で進めることが必要ではないか。現在の書き方だと、連携することだけが課題として捉えられる。
- 委員：この項目は連携が必要であるということでまとまっているので、例えば、もう1項目たてて、現に進んでいる施策について、メリット・デメリットを踏まえて検討を進める必要があるということを追加してはどうか。
- 委員：1つ目に「多様な学習機会の提供・充実を図られたい」とあるが、この間の議論では、今後、公共施設適正配置基本計画で、公共施設が複合化もしくは廃止、集約をされ、縮小傾向にあるということだったので、「学習の場の確保」という言葉を入れていただきたいと思うが、いかがか。
- 委員：「多様な学習機会の提供」でカバーされるので必要ないのではないか。
- 事務局：「学習の場」であるが、委員のご意見のとおり「学習機会の提供」で幅広くとらえているという考え方であり、ご理解いただければと思う。地域コミュニティと連携するにあたってのメリット・デメリットの検討であるが、連携する前提としてという意見だと思うので、文章の中に、「課題の検討をしたうえで」というような文言を入れていく形ではいかがか。
- 会長：「学習の場」については、事務局の回答でいかがか。
- 委員：「学習機会の提供」で大きくとらえているということで理解した。
- 会長：コミュニティ・スクールの地域コミュニティとの連携について、事務局の案でいかがか。
- 委員：前提でもあり、進めていく上での課題もあると思うので、その点を盛り込んでいただければと思う。
- 会長：次に「誰もが健やかにいきいきと暮らせるまちづくりについて」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。
- 委員：市立病院の部分で「すべての診療科を充実することは財源的にも厳しい」という表現となっているが、市立病院は公営企業法で独自の経営をしており、「経営的にも厳しい」というような表現となるのではないかと思う。同時に国も地域医療構想ということで、統廃合を含めて、一定の方向性が厚労省から出たところである。そういった部分も射程に入った表現となっており、本市も検討している段階だろうと思う。どこまでそのことを表現するかは検討が必要だと思う。近隣市町との役割分担を検討しながら、国も府も推進しているので、そのスタンスで病院の経営の問題を考えておられるのかなと思ったので意見した。
- 委員：「近隣市町との役割分担を検討しながら取組みを推進されたい」とあるが、「近隣市町と連携」など連携体制を構築する方向性を明確にして欲しい。
- 委員：近隣市町との役割分担とあるが、周辺の病院には市営や民営など様々ある。まずは、泉大津市の市立病院を充実させることが喫緊の課題であり、そのような対策をとりながら、周辺市町の病院と連携できる部分は連携していただきたい。

- 委員：市立病院について、問題ある部分を列挙して具体的に答申に書くことは難しいが、変えていくことが必要であるということをはっきりと書いてもらえばよい。障がい者支援についても、支援学校も様々であり、いろいろな問題が発生しているが気づかされていない。チェックまですることは難しいが、ある程度情報を収集していただいて、レベルを知ってもらうことが大事だと思う。
- 会長：これまでの意見でどのように修正すればよいか、事務局で案はあるか。
- 事務局：市立病院の部分については、「財源的」を「経営的」に修正してはどうか。
- 会長：そのような修正でよいか。また、広域連携を明確に入れていただければと思う。障がい者の部分はどうか。
- 委員：総論なので、具体的に書くことは難しいが、障がい者支援の場の出来事はナイーブな問題があり、いろいろな出来事があるということを認識していただいて是正していくことが必要である。
- 委員：支援学校等は府の管轄、市内の小中学校の支援クラスは教育委員会の関わりになると思うが、ほとんどの働く場、暮らしの場は、民間の作業所やグループホームになるので、行政が、民間事業所がどういう状況にあり、どのような取組みをやっているのかをしっかりとチェックしてもらうことしかないかなと思う。行政側が状況をしっかりと踏まえて取り組んでいくことが大事かなと思う。
- 会長：答申案はこのままとし、今の議論をしっかりと議事録で残していただく形でお願いしたい。次に「安全で心やすらぐまちづくりについて」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。
- 委員：「客観的な犯罪の理解の下」とあるが、どのように解釈すればよいか。犯罪につながるような環境についての話し合いをしていた記憶があるが、ここの文言をもう少しわかりやすく、はっきりとした定義にしていただけないかなと思う。
- 副会長：「客観的な犯罪の理解の下」というのは、体感治安や印象といったものではなく、エビデンスに基づいた客観的な犯罪状況を理解するということだと思うが、これだけを読むと多義的でいろいろと理解されると思うので、「エビデンスに基づいた防犯対策をめざし」にするとよいのではないかな。
- 会長：次に「コンパクトで居心地のよいまちづくりについて」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。
- 委員：2つ目に「市内企業の移転先として活用するなど」とあるが、私の理解では、「住環境の改善の観点から」取り組むことであり、明記しておかないと理解できない。
- 委員：これまでの議論では、市内の住工混在型地域を解消するために臨海部を移転先として活用できれば良いということであったので、「住環境の改善のため」という文言を入れることが良いと思う。
- 会長：次に「誇れる・選ばれる・集えるまちづくりについて」文言の加筆修正などご意見があればお願いします。この分野については、まちのブランディング、イメージづくりが大事になってきており、泉大津市でも力を入れてやっていると思うが、ご意見があればいただきたい。
- 委員：「オーバーツーリズムなど市民生活にも影響がある」とあるが、オーバーツーリズムという言葉は、地元市民への影響もあれば、観光客がクオリティの低い観光しか味わえない

いという意味もあり、この表現では少し違和感がある。例えば、「観光振興に伴う市民生活への影響も考慮する必要がある」といった表現にしてはどうか。

会長：委員の意見を踏まえて修正をしてほしい。

委員：選ばれる泉大津のポイントは、近隣の名所、世界遺産と連携し、コースに入れてもらうという答申となっているが、地場産業という観点が無い。穴師神社には織物のまちとしての歴史が書かれてある。繊維のまちであり、毛布、ニットの国内生産をリードしているまちである。それらと連携した+αの人の寄ってくる観光、まちおこし、ふるさと納税などの取組みを付け加えたらもっとコンパクトなまちとなる。歴史・文化だけでなく、地場産業も宣伝してはどうか。

会長：委員からの指摘は、私も商工業を代表する立場として、ここに地場産業、おりもの、繊維の街で栄えてきた市民生活を支える商業の部分も大事なので、地場産業の工業を盛り上げ、市民生活を支える商業の発展も支援するような文言を考えて入れていただければと思う。

委員：地場産業がかつて隆盛をほこった時期とは違う。市民生活を支えるという表現は実態とあっていない。未来の泉大津の産業構造をどうするのかにも関わってくる部分なので、表現が難しい分野だと思う。

会長：市民生活を支えるのは工業ではなく商業である。工業については、確かに産業構造は変わってきている。工業は大きな転換点を迎えており、残すか、無くすかになっている。それにあたっての市としての取組みを入れてほしい。商業は、ネット販売が広がり、買うところがなくなってきている。そういった点も答申のなかで書いておくことが必要かなと思う。

委員：観光に関しては、最後の文章が重要だと思っており、観光集客をどこまで推進するのか、これから議論していかないといけないと思う。コンパクトシティ、災害に強い側面と、観光集客ということとのバランスをどうとっているのか。ただ、多くの人が通過している状況や観光資源があるということを考えるとはおけない。最後の文章をしっかりと認知してもらうことが重要かなと思う。

会長：観光については、それでよいと思う。商業と工業については、事務局どうか。

事務局：キーワードになっているのは「市民生活を支える商業」を中心に考えることになると思うが、そこに地場産業の視点も含めてまとめていくようなイメージでよいか。

委員：「誇れる・選ばれる・集えるまちづくり」で、地場産業を観光という視点でとらえてほしいのか、観光だけではなく、集える、買えるといった観点の地場産業の文章を入れたいということなのか。

会長：泉大津は便利なまちだと思う。それを支えるのは商業施設や飲食店であり、これをもっと盛んにしていくことを宣伝してあげることが必要だと思うので、商業支援を申し上げている。また、日本の国内において、毛布産業、繊維のウールの産地としての泉大津は、2しかない産地の1つであり、国内の医療用の紡毛糸の8割以上が泉大津近辺で作られている。ものづくりにスポットをあてることで、まちのPRにもなる。例えばおづみんがいるが、なぜおづみんかというところから来ている。繊維工業が昔からあったことを答申書に盛り込むことで意識してもらうことが必要ではないかと思う。商業に対する思いと、工業に対する思いは違う。今後日本において、モノづくりがなくなってい

くなかで、ものづくりがあることはすごく貴重なことである。もちろん業界も頑張る必要があり、頑張らないところはなくなっていくであろう。行政がそういった産業があるよとPRしてもらっただけでも効果があるので載せていただきたい。

委員：商工業ことを言われているが、泉大津の繊維業は窮地にあると思う。旭化成がかつて全く分野が違うところに挑戦されている。東レもそうである。中小企業のまちの東大阪でも全く違う分野で成功された町工場がある。泉大津市でも繊維にはこだわらないといけませんが、ノウハウを全く違う業種で発揮して発展される余地があると思う。新産業の創出という面での、市の人材育成支援だとか、確かに書かれていないで、抜けているので、何等かの観点で、これまでに拘らず、飛躍する余地がある表現を入れていただければと思う。

委員：例えば地場産業の工場見学は観光資源になると思うが、そのレベルではなく、新しく注目をあびるようなものに置き換えるとなると、言葉で表現することが大変だと思うので、できるだけ具体的に示さないと事務局が判断できないかなと思う。

委員：この6行は観光のことしか書いていない。そこに今の話をもってくるとそれを両立させるのは難しいので、最初に、「本市は毛布、織物では日本では確固たる地位をもっており、今後もそれを支えていかないといけませんが、それ以外に観光では」と書いてはどうか。

事務局：この章については、1つの項目となっているが、他の章では2つのところもあるので、1つ項目を立てて、「市民生活を支える商業」、「産業を支援していく」、「昔からの地場産業」をキーワードとして検討していけばどうか。

委員：市長も新しい施策について幅広く提案されているので、観光のポテンシャルは、どんどん新しいものを生み出していくことを表記してはどうかと思う。市民の観光資源の認知度が低いことは、ポテンシャルに対してなのであれば、掘り出せば出てくるという表記があれば良いと思う。

事務局：答申案は、皆さんの意見をまとめたものであり、表現方法を修正したほうがよければ修正する。例えば「ポテンシャル」ということばを、「観光を生み出す可能性があるもの」に変更すればよいと思うがいかがか。

会長：その形でよいか。

委員：確認だが、審議会の答申は、基本計画（案）がメインとなって、そのなかでも委員が強調しておきたかった内容がこの項目となっている理解でよいか。そうであればすべてが入っていく必要はない。商工業の話でも、基本施策がある。強調しておきたいということであれば、入れておけばよい。

会長：次に「健全な行財政と都市経営に基づく市民サービスについて」文言の加筆修正などご意見があれば願います。

委員：質問であるが土地開発公社とはどのような仕事をされているのか。

事務局：以前土地が右肩上がりの時代があった。その時に市として土地を買って行わなければいけない都市計画事業などが進められるように、土地開発公社で先に土地を買っておき、事業を進める段階で公社の土地を市が買い戻すといった仕組みがあった。きちっとやっておれば、公社に土地は残らないのだが、市の財政状況が悪くなって、事業が滞って、公社が持っている土地が増え、利子も発生したまま、ふくらんできた経緯がある。いわゆる塩漬けの土地は、計画的に買い戻しを進めていきなさいという国からの指示があり、

それに向けて、公社から買戻しを進めている。

会 長：土地開発公社については問題があり、国から指摘がされたのを健全化に取り組んでいるということだが、大事な話なので、答申に盛り込むという理解でお願いしたい。

副 会 長：情報提供だが、東京の千代田区の麹町中学校の工藤校長のお話を聞く機会があった。東京の千代田区の公立中学校、5年半で改革をされて、本も書かれている。そのなかで、私たちが議論している審議会にも関係すると改めて思ったことがある。改革を進めるときに何が重要かということで2つあげられていた、1つは最上位の目的をみんなで共有して合意する。2つめは目的と手段を混同していることが多い。連携ということがキーワードとして出たが、地域連携を進めないといけないといろいろするが、連携することが目的となっていて、何のために連携しているのか、最上位の目標が関係者のなかで、共有されていない、勝手に自分のイメージを描いていることがある。最上位の目標が何か。無駄なことをたくさんしている。工藤先生が着任されて3か月で、ご自身の課題も含めて200ぐらいの課題を整理して、最上位の目標を共有していった。そうすると、200の課題のうちかなりの部分は意味のないことをやっていたことがわかった。例えば、固定学級担任制を廃止したり、宿題を出さない、最上位の目的が共有できたときに、つながりが見えてきた。そういう視点から改め得て総合計画を見直すと、いろいろと整理できた次第である。

会 長：本日いただいた意見は、私にて責任を持って取りまとめさせていただく。答申の取りまとめ及び市長への提出について、会長へ一任させていただきたいと思うがいかがか。

各 委 員：異議なし

会 長：それでは、答申の取りまとめ及び提出については、杉原副会長と相談のうえ、責任をもって私に対応させていただく。なお、取りまとめた答申は、市長への提出前に、事務局を通して、皆様方へご報告する。また、本審議会を代表して、私より市長に答申書をお渡しする。その日程についても皆さまへ事前にお知らせするので、ご都合がつく委員の方については同席をいただければと思う。この件について、ご質問等があれば願います。

委 員：答申の時期について目処はあるのか。

事 務 局：ご意見いただいたもの早くまとめて、会長と相談しとりまとめ、来月の早いうちには進めさせていただきたいと考えている。

委 員：全体のことであるが、資料1を見ると、市の考え方とあるが、2回の会議があった、話し合われた内容について、できていない点、足りない点あるのではないか。こうして欲しいという意見があったと思う。この市の考え方のまとめ方には感じられない。説明をしていただいた言葉のなかでは、「意見を踏まえて取り組んでいく。」とお願いしていた。この意見を踏まえて取り組んでいくということで理解したが、口頭でおっしゃられたことは残っていない。もういちど、おっしゃられた議事録だけでなく、担当者が買われても口頭で言われたものを踏まえて進めていくということをお願いしたい。

会 長：しっかりと聞いていただいております。

(4) 閉会

以上